

# 生産革新マネジメントコース

～現場と経営をつなぎ、「強い工場」をつくる人材の養成～



**開催期間** 2019年 6月 ～ 2020年 2月

**日 程** 毎月1回程度 木・金曜日(10:00～17:00)

**対 象** 生産関連部門(製造・生産管理・品質・調達など)のリーダー、マネジャー  
(定員20名)

**会 場** 経営アカデミー  
(東京都千代田区丸の内1-6-2 新丸の内センタービル6階)



公益財団法人日本生産性本部

<https://k-academy.jp/>

# 本コースが目指すもの

## 現場と経営をつなぎ、「強い工場」をつくる人材の養成

### — 「ものづくり」の原点 —

日本企業の競争力は「強い工場」によって支えられてきたと言われてきましたが、近年、海外移転や製造工程のアウトソーシング、改善活動の行き詰まりなどによって、その「強い工場」が根底から揺らいでいる企業が少なくありません。なくしてはならない、自社のものづくりの源泉は何か。本コースでは、自社の競争力を生み出している、ものづくりの基盤をしっかりと築けるようにします。

### — インダストリー4.0 の中で —

今、IoTやAIなど、技術の進化により、ものづくりの環境も大きく変わろうとしています。その中で、「変えなければならないこと」、「変えてはならないこと」を判断していく必要があります。本コースでは、ものづくりの潮流を俯瞰し、自社のものづくりの指針を考えられる人材の養成を目指します。

## 本コースが目指す 3 つの力

工場経営力



現場マネジメント



主体的革新力

### ものづくりの想い

10年後を見据えて、自社のありたい姿を描く

現場の視点

経営の視点

#### 現場の競争力

IE、適正在庫、レイアウト、物流

#### 工場のマネジメント

戦略、組織文化、CSR、リーダーシップ

#### 問題発見・課題設定力

フィールド・スタディによる仮説構築

#### グローバル生産

日本と海外の工場の役割、生産移管のポイント

#### 経営的課題を見つける

グループ研究  
工場幹部との対話



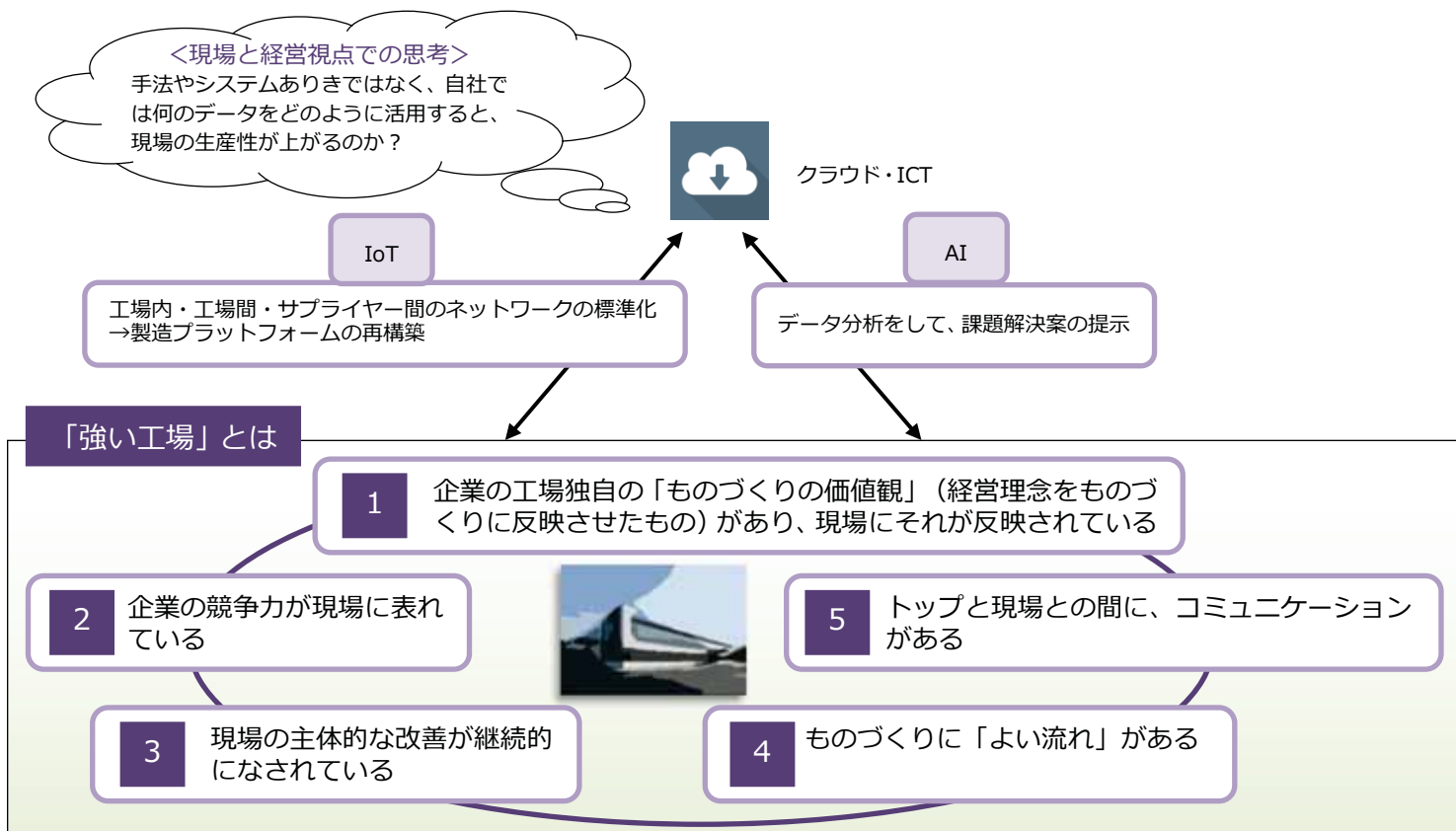
#### ものづくりを考える

インダストリー4.0時代の現場力  
工場見学・海外調査（アジア）

「強い工場」をつくる

# 本コースの考える「強い工場」とは

自社のものづくりの基盤を大切に、流行りに過剰反応しない「ものづくり哲学」をもつことが重要です。基盤がしっかりしていなければ、新たな手法やシステムを導入しても、うまく機能しない可能性があります。本コースでは、次の要素を持つ工場が、長期的な競争力を有する「強い工場」と考えています。



# 講師陣

## ＜コース委員長＞



釜 和明  
IHI  
相談役

## ＜コーディネーター＞



河野 宏和  
慶應義塾大学大学院  
経営管理研究科 教授



平川 保博  
東京理科大学  
副学長

## ＜グループ指導講師＞



坂爪 裕  
慶應義塾大学大学院  
経営管理研究科 教授



伊呂原 隆  
上智大学  
理工学部 教授

浅井 浩一 日本マネジメントケアリスト協会 理事長  
(元日本たばこ産業)

石川 歩 アイルインターナショナル 代表

稲田 周平 慶應義塾大学 准教授

伊呂原 隆 上智大学 教授

梅崎 修 法政大学 教授

小川 正樹 MEマネジメントサービス 代表取締役

加藤篤士道 日本生産性本部 主席経営コンサルタント・公認会計士

河野 宏和 慶應義塾大学大学院 教授

坂爪 裕 慶應義塾大学大学院 教授

篠田 心治 成蹊大学 教授

芝田 稔子 湯浅コンサルティング コンサルタント(元日通総合研究所)

新宅純二郎 東京大学大学院 教授

徳山 誠 プレビス 代表取締役 (元三菱自動車工業)

平川 保博 東京理科大学 副学長

吉沢 昇司 ジーニアスホープ 代表取締役(元ベネッセコーポレーション)



## 目指す力（１） 工場経営力

ものづくりを取り巻く環境を長い時間軸で捉え、工場経営に関わる理論を体系的に学ぶことで、「これ以上の現場はない」と言える工場の実現を目指して、幅広い視野を身に付けます。

### ものづくりを俯瞰する

自社のものづくりのあるべき姿を考えられる

人材を育成し、自発的に改善活動ができる組織をつくることできる

よい「ものの流れ」を設計し、在庫を適切にコントロールできる

現場の特性にあった管理会計の考え方を学び、現場を変革できる

設備の開発、メンテナンス力強化、サプライヤーとの創発による製品提案など、工場独自の強みを作ることができる



国内生産と海外生産のそれぞれのメリット・デメリットを考えられる

運転資本やサプライヤーとの契約、移転価格など、広い視点で生産戦略を考えられる

設備投資の際、自分で計算し、経済的に有利な意思決定ができる

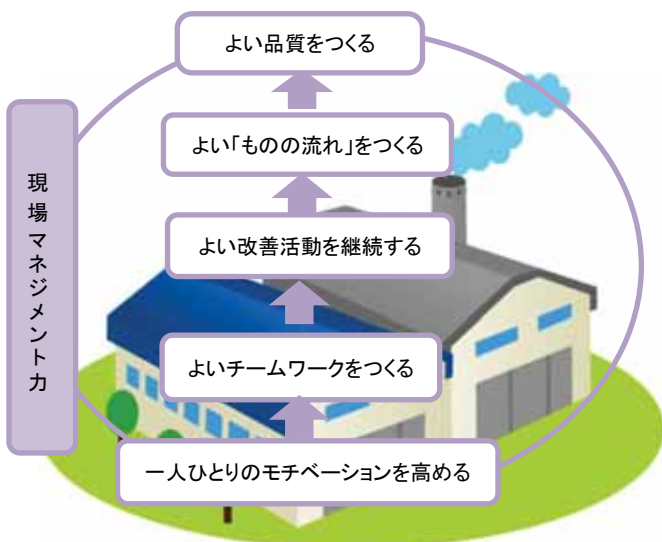
国内外の他工場との役割や連携の仕方を考えられる

IEとIoTが融合した、次世代の生産体制を構想できる



## 目指す力（２） 現場マネジメント力

強い工場をつくるためには、顧客と約束したQCDを遵守できる現場を構築することが不可欠です。当コースでは、講義や工場視察を通して、現場マネジメントのあり方・進め方を議論します。様々なテーマで視察先と改善点について議論し、視察先と自社を比較することで、自社の課題を客観的に見つめ、その解決策を考えていきます。



### 工場視察先

国内

- ①プリチストン
- ②安川電機
- ③日産自動車
- ④トヨタL&F ほか

海外調査

- ①ヤマハ・モーター・ベトナム
- ②TOTO・ベトナム
- ③パナソニック・システムネットワークス・ベトナム
- ④ロジテム・ベトナム・No.2
- ⑤YKKベトナム
- ⑥ヨコハマ・タイヤ・ベトナム
- ⑦ブラザー・インダストリーズ・サイゴン
- ⑧味の素・ベトナム

※2017年度実績

※海外調査：2017年度 ベトナム、2018年度 タイ（予定）

※日本インダストリアル・エンジニアリング協会との連携プログラム



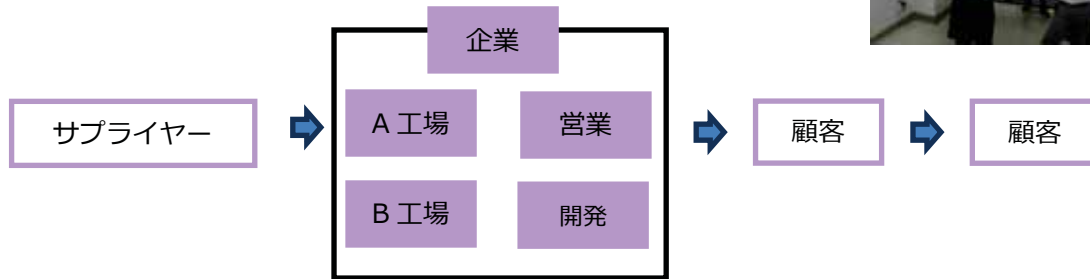
## 目指す力（3） 主体的革新力

グループ研究において、自身の経験と講義で学んだ知識、異業種のメンバーのノウハウを融合し、ものづくりの体制、改善活動が進む組織文化のあり方を考え、工場を革新する視野と行動力を身に付けます。（実際の工場を対象にもものづくり体制の提案を行い、講義での学びを確かなものとします）



全体（工程内 ⇔ 工程間 ⇔ 部門間 ⇔ 工場全体 ⇔ 会社全体 ⇔ 業界全体）を俯瞰し、企業の持続的な競争力を実現するための工場の役割、現場の課題を考えることで、ものづくりを理解した経営人材の育成を目指します。

- どのような外的要因があると、どの工程に影響が出るのか？
- 外部環境がどう変わるかという文脈で、工場の役割を捉え直す



### <グループ研究例 1>

「利益を上げ続けられる改善マネジメント」  
改善活動がなかなか根付かないという課題を抱えていた A 工場を対象に実施。

→ 貿易戦争の今後を議論しつつ、持続的な競争優位を持つために何がすべきか、短期・長期の時間軸で改善活動、企業体質を議論。

### <グループ研究例 2>

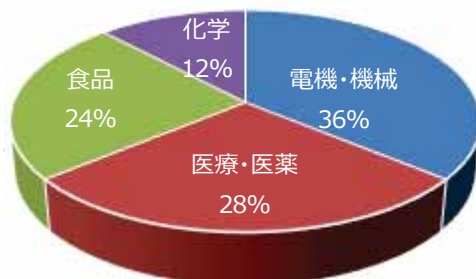
「よい『ものの流れ』をつくる」  
生産計画と実需がマッチングせず、結果的に様々な現場でムダが出ていた B 工場を対象に実施。

→ 全体のものの流れを俯瞰し、上流工程で問題の芽を摘む取組みを実施し、約 2,500 万円のコスト削減。

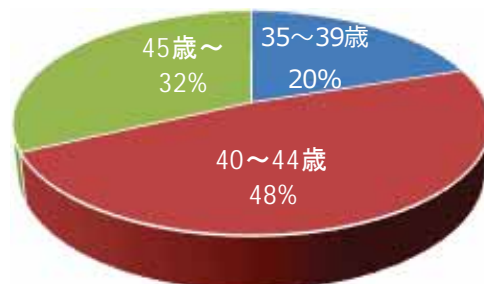


## 参加者データ（2018年度）

業種別



年齢別（平均年齢 42 歳）



### <過去5年ご参加企業>

- ・電 機 ・ 機 械 … IHI, TBK, TDK, キヤノン電子、クボタ、ジーエルサイエンス、東光高岳、鍋屋バイテック、湯山製作所
- ・食 品 … キッコーマンフードテック、なとり、日本水産、日清オイリオグループ、明治、理研ビタミン、雪印メグミルク
- ・医療・医薬・化学 … 旭化成、関西ペイント、杏林製薬、日本サーファクタント工業、日本色材工業研究所、日本ポリプロ、住友大阪セメント、テルモ、富士レリオ、メルテックス、ロート製薬
- ・その他製造 … アルファ、廣濟堂、コマツ、東タイ、巴コーポレーション、日本結晶光学、日本信号、ミットヨ、UACJ





# 2019年度「生産革新マネジメントコース」日程概要（予定）

講義：23コマ

グループ研究：23コマ

工場見学：10社程度（海外での見学先含む）

月	テーマ	講義・演習	グループ研究	自己課題	
6月	広い視点の醸成	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ものづくり企業の競争力 —ものづくりの潮流を踏まえ、企業経営と企業体質を考える</li> <li>■つながる工場 —最新のIoT事例を学び、すぐにできるIoTを考える（ワークショップ）</li> </ul>		自己課題整理、コース修了後の目標設定	
	品質	<ul style="list-style-type: none"> <li>■品質管理 —品質を決定する要因、データ分析の手法</li> </ul>	グループ研究【1】 グループ編成	各講義の気づきと学びを整理	
	投資判断・意思決定	<ul style="list-style-type: none"> <li>■設備投資の意思決定 —経済性分析から、経済的に有利な意思決定を学ぶ</li> </ul>	グループ研究【2】 テーマの議論		
	現場力	<ul style="list-style-type: none"> <li>■フィールドワーク —仮設構築力、行動力、検証力を練磨する</li> </ul>			
7月	問題発見の手法	<ul style="list-style-type: none"> <li>■納期遅延のケース —様々な要因からなる複雑な問題を構造化する</li> </ul>	グループ研究【3】 テーマの議論		
	SCM	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ものの流れのマネジメント —全体のものの流れを俯瞰する視点を養う</li> <li>■システムダイナミクス —演習を通じ、企業・組織の意思決定プロセスを学ぶ</li> <li>■在庫の最適化・倉庫の生産性 —在庫のメカニズムを理解するほか、倉庫の生産性を考える</li> </ul>	グループ研究【4】 テーマの議論	自己課題フィードバックシートの提出・ご派遣窓口と共有	
8月	工場見学	第1回合宿（2泊3日）		グループ研究【5-6】 工場見学	
9月	IE	<ul style="list-style-type: none"> <li>■IEによる現場改善 —IEの観点で、現場改善のステップを学ぶ</li> </ul>	グループ研究【7-14】 テーマの議論		
	スケジューリング	<ul style="list-style-type: none"> <li>■スケジューリング、クリティカルパス —製品の生産順序、全体の工程のボトルネックを考える</li> </ul>			
10月	現場と経営	<ul style="list-style-type: none"> <li>■現場が動き出す管理会計 —会社の方針と人の心理面から、自律型現場を考える</li> <li>■経営理念に基づくものづくり —ものづくりをする上で、ぶれない軸を持つ重要性を考える</li> </ul>			
11月	マネジメント	海外調査（アジア）	希望者のみ		自己課題フィードバックシートの提出・ご派遣窓口と共有
		<ul style="list-style-type: none"> <li>■変革の思考方法 —固定観念を突破し、現場変革のダイナミズムを経験する</li> <li>■工場幹部のためのマネジメント —次代に向けて、人材育成・技術伝承について議論する</li> </ul>			
12月	グローバル	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ものづくりの国際経営戦略 —グローバル時代における、日本工場の役割を考える</li> </ul>	第2回合宿（1泊2日）		改善道場（現場演習）
2020年 1月	概念化能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>■総合演習 —知識や手法を総動員し、問題発見のプロセスを経験する</li> </ul>			
		第3回合宿（1泊2日）	グループ研究【15-18】		
2月	リーダーシップ	<ul style="list-style-type: none"> <li>■工場幹部のためのマネジメント —IEとIoTが融合したものづくりを考える</li> <li>—自分にあったリーダー像を描く</li> </ul>	グループ研究【18-23】 報告書作成	自己課題フィードバックシートの提出・ご派遣窓口と共有	
8月	フォローアップ	工場見学（ベンチマーク）			

\* 都合により、内容が変更になる場合があります。

●修了後 工場見学会を実施し、継続的にベンチマークと自己研鑽の場を設けています。

＜過去実施例＞

キヤノン電子、日産自動車、中外製薬工業、テルモ、日本水産  
ヤマト運輸、ジャパンリユニテッド、日野自動車、安川電機など



# 2019年度 経営アカデミー 参加申込書

**貴社名**

<b>派遣 責任 者</b>	〒	所在地	
	TEL	(                    )	e-mail
	所属/役職		
	氏名		

(※派遣責任者と同一の場合は記入の必要はございません)

<b>研修 担当 者</b>	〒	所在地	
	TEL	(                    )	e-mail
	所属/役職		
	氏名		

**開講案内送付先**  
(○で囲んで下さい)

参加者 ・ 研修担当者

※請求書及びご派遣窓口への必要書類などは研修ご担当者宛に送付申し上げます。  
なお、請求書の宛先が上記貴社名と異なる場合は、下記に請求書宛先社名をご記入ください。

**請求書宛先社名:** \_\_\_\_\_

<b>参加 者 1</b>	コース名	<b>生産革新マネジメント</b>	コース	フリガナ
	所属/役職			氏名
	〒	所在地		
	TEL	(                    )	e-mail	@
<b>参加 者 2</b>	コース名		コース	フリガナ
	所属/役職			氏名
	〒	所在地		
	TEL	(                    )	e-mail	@
<b>参加 者 3</b>	コース名		コース	フリガナ
	所属/役職			氏名
	〒	所在地		
	TEL	(                    )	e-mail	@

**■ご質問** (該当する記号を○で囲んでください)

経営アカデミーご派遣の予算申請の時期はいつ頃でしょうか？ A.18年10月 B.18年11月 C.18年12月 D.19年1月 E.19年2月 F.19年3月 G.19年4月以降

※個人情報の取扱いについて

**下記の【個人情報の取り扱いについて】をご確認、同意される場合に限り、本申込書に必要事項を記入の上、お申込みください。**

1. 個人情報は、『経営アカデミー』の参加者名簿等の資料等の作成、ならびに当本部が主催・実施する各事業におけるサービス提供や事業のご案内、および顧客分析・市場調査のために利用させていただきます。なお個人情報の提供は任意ですが、ご提出頂けない場合、当本部からのサービスを受けられない場合がございます。
2. お預かりした個人情報は、案内状や参加証、テキストの送付などを目的で一部委託する場合がございます。
3. 本部が保有する個人情報について、開示、訂正、削除、利用停止などの請求があった場合には、本人であることを確認の上で本部の定める書類にて対応いたします。
4. 個人情報の取り扱いについての疑問・質問、開示等請求は以下までご連絡ください。  
公益財団法人日本生産性本部 経営アカデミー Tel:03-5221-8455
5. 個人情報保護管理者 総務部長

※コース運営に支障が生じると判断される場合は、お申込みをお断りすることがございます。

FAX:03-5221-8479 E-mail:academy\_info@jpc-net.jp

Webからお申込みの場合はこちら → 経営アカデミーホームページ 【URL】<https://k-academy.jp/>

## 経営アカデミー コース一覧

経営アカデミーとは、1965年に産業界の発意と学界の協力により創設されたわが国で最初の本格的な経営大学院です。当アカデミーを修了された方々は14,000名を超え、産業界のリーダーとして活躍しています。

### ●マネジメント・リーダー養成

コース名	実施期間	主な対象者	コースの目的	参加費（ ）内8%税込	
				賛助会員	一般
トップマネジメント・コース	2019年7月～12月	取締役、執行役員、事業部長、部長	戦略思考に基づいたビジョンを語り、先頭に立って実践できるトップリーダーの養成	115万円 (124.2万円)	125万円 (135万円)
事業変革イノベーションコース	2019年6月～12月	事業責任者、企画・監査部門の責任者、戦略スタッフ	事業構造変革に必要な取り組みを統合的にコーディネートし、経営トップをサポートできるリーダーの養成	122万円 (131.76万円)	132万円 (142.56万円)
経営戦略コース	2019年5月～2020年3月	部長、課長(全職種)	自社ビジネスのあり方を見直し、次の戦略を深く多面的に考えるリーダーの養成	106万円 (114.48万円)	116万円 (125.28万円)
技術経営コース	2019年5月～2020年2月	技術戦略、技術企画、研究所、製品開発担当(部長・課長・リーダー)	“技術”から事業価値を創出できるリーダーの養成	106万円 (114.48万円)	116万円 (125.28万円)
組織変革とリーダーシップコース	2019年6月～2020年2月	部・課・チームの組織運営を行うリーダー	人・組織・戦略の視点で組織変革を推進できるリーダーの養成	94万円 (101.52万円)	104万円 (112.32万円)
				合宿費別	

### ●プロフェッショナル・リーダー養成

コース名	実施期間	主な対象者	コースの目的	参加費（ ）内8%税込	
				賛助会員	一般
マーケティング戦略コース	2019年5月～2020年3月	マーケティング、営業部門の部長、課長、リーダー、戦略スタッフ	先見性・革新性・戦略性で成熟市場を打ち破るマーケターの育成	94万円 (101.52万円)	104万円 (112.32万円)
生産革新マネジメントコース	2019年6月～2020年2月	生産関連部門(製造、生産管理、品質、調達など)のリーダー、マネジャー	現場と経営の視点で、「強い工場」をつくる人材の養成	94万円 (101.52万円)	104万円 (112.32万円)
人事革新コース	2019年5月～2020年2月	人事部・人材開発部門のマネジャー、リーダー、戦略スタッフ	人材マネジメントに革新を起こし、世界で競争力のある強い組織創りをリードする戦略的人事リーダーの養成	94万円 (101.52万円)	104万円 (112.32万円)
経営財務コース	2019年6月～12月	財務、経理、IR、企画部門のマネジャー・専門スタッフ	企業価値の向上をリードする、将来のCFOの養成	94万円 (101.52万円)	104万円 (112.32万円)
				合宿費別	

■国内合宿費 1回当たり 4～7万円 (経営財務コースは合宿費のほかにビジネスゲーム使用料 1万円程度)

■海外調査費 トップマネジメント・コース 39万円程度、人事革新コース、生産革新マネジメントコース 30万円程度

※参加費に含まれないもの:丸の内教室通学・合宿・企業見学・インタビュー等の交通費、グループ研究の図書・資料代、その他、個別的・追加的に発生する費用

※参加費、その他費用は2019年度の予定金額

### お申込み・お問い合わせ先



公益財団法人日本生産性本部 経営アカデミー  
〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-6-2  
新丸の内センタービル6階  
TEL : 03-5221-8455 FAX : 03-5221-8479  
mail: academy\_info@jpc-net.jp  
HP : <https://k-academy.jp/>

\* 賛助会員制度につきましては、下記まで  
お気軽にお問い合わせください。  
会員サービスセンター TEL : 03-3511-4026



東京駅丸の内北口より徒歩3分、地下鉄大手町駅B2b出口よりすぐ